



太陽光発電に関する総合イベント

PVJapan 2013

国内外の省エネ技術が集結
来場者数は4万5000人超

産官学が集う一大イベントに成長

7月24日から26日まで、東京ビッグサイト西1・2ホールにおいて、太陽光発電の普及を目的とした「PVジャパン2013」(主催…一般社団法人太陽光発電協会)が開催された。今年2月末に催された「第4回太陽光発電システム施工展」と並び、わが国における太陽光発電関連技術が一堂に集まる総合展示会、海外からも10の国と地域が出展し、総出展者数は185に上った。会期中は折からの猛暑に見舞われたが、最新技術を求める業界関係者が詰めかけ、3日間の来場者数は4万5千人超と盛況だった。

同展示会の開催は今年で6回目。今回も「第8回再生可能エネルギー世界展示会」(主催…再生可能エネルギー協議会)と併設され、再生可能エネルギーの重要性と将来性を訴えられるなかで、太陽光発電への関心の高さが改めて浮き彫りとなった。

ホール内の会場には、太陽電池/応用製品ゾーンをメインとし、各種施工関連ゾーン、システム/BOS/スマートネット/サービス/自治体ゾーン、製造装置関連/部品/材料/施設関連/検査/測定機器ゾーンを配置。また、アトリ

取材・文=西村弘志

ウムには大学などの研究機関によるアカデミックギャラリ、6県が参加した自治体ゾーンのほか、米国の5州が出展するASOA(アメリカ州政府協会)ブースなども設けられ、まさに産官学が顔をそろえる総合的かつグローバルな展示会であった。

花形はやはり太陽光発電モジュール

昨年4月に、再生可能エネルギーによる電力の固定価格買取制度がスタート。以来活況を呈してきた日本の太陽光発電市場だが、さらに今年中に日本国内に新たに導入される太陽光の発電能力は、昨年比2.2倍の530万kWと予想され、設備や設置費用を含めた総額で世界一となる見通しだ。

また、資源エネルギー庁のとりまとめによると、買取制度の施行から今年1月までの再生可能エネルギー発電設備による発電量は139.4万kWで、そのうち95%が太陽光発電によるものだった。展示会の会場内でも太陽光発電モジュールの人気は高かった。なかでも、国内メーカーの住宅用製品の展示ブースには人だかりがで、国内出荷量「※」大手8社(シャープ、京セラ、パナソニック、東芝、三菱電機、ソーラーフロンティア、長洲産業、カネカ)のブースでは新製品の紹介プレゼンや施工実

演などが何度も行われていた。

これまでは、海外メーカーのコストパフォーマンスに優れた製品に押され気味だったが、変換効率の高い国産の製品が盛り返していることは、海外出展者のブース数と比べてもわかる。消費税増税前の駆け込み需要も追い風となっており、太陽光発電関連の設備業はもちろん、工務店やビルダーとおぼしき来場者が、熱心に説明を聞いている様子が国内メーカーの勢いを物語っていた。

太陽光発電モジュール以外では、パネルを屋根面などに設置するための架台、太陽光発電で得られた電気エネルギーをマネージメントする最新機器、さらに電気を貯める蓄電池システムなども展示。エネルギーをつくる、使う、貯えるという一連の工程にかかわる技術が、1つの会場で見られる利便性も、この展示会が人を集める要因となっている。

このほか、西1ホールのメインステージでは、最新動向をはじめとする無料の専門セミナーが9回あり、各回とも多くの事前登録者が講師の話に興味深く耳を傾けていた。

同展示会は来年度も開催する予定だ。太陽光発電市場の成長の一翼を担うイベントとして、さらなる充実を期待したい。

イベントレポート

カナメ

CANAME



取付金具の首振り機能を実演して説明するマーケティング課の西海石絵美氏



産業用(ハゼ折板用)フラットグリップ金具の施工写真

※ 2012年出荷量の順。「ソルビストPVJapan2013特別配布号」より

東芝

TOSHIBA



最大モジュール変換効率世界No.1の250Wモジュールも展示



ジオラマの前で太陽光について語る住宅用太陽光発電システム推進部の亀田光男氏

寄棟屋根などにも屋根いっばいに載せることができる「よせびたモジュール」が今秋発売予定。モジュール出力は20年、設備機器は15年の長期保証(有償)があることも東芝の魅力の1つ。